

## その他の教育活動との関連

○飲酒に関する指導は、学校全体で指導を行うことが求められています。保健体育科に限らず、他の教科や教育活動のなかで実践することができます。

・学校行事（学校保健委員会）

生徒保健委員会の生徒を中心に企画させ、学校内アンケート調査を実施する。PTAや地域の人を対象に行政や関係機関の参加を得て、校内の実態から地域全体で未成年者飲酒防止のための意見や相互理解と連携を図る機会を設定する。

・特別活動（学級活動）

未成年者飲酒による事例より、登場人物の行動から気持ちや考えを予想し、適切な対処法について生徒同士で意見を交換させ、具体的な解決方法を考える。

・国語

飲酒は身近な人から誘われる機会が多い。効果的な断り方を考えさせ、誘惑に勝つための標語を考える。

### 参考資料

文科省（高校生用）	「健康な生活を送るために」（高校生用補助資料） <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/08111805.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/08111805.htm</a>
国税庁	未成年者の飲酒防止 / 適正飲酒の推進 <a href="https://www.nta.go.jp/shiraberu/senmonjoho/sake/miseinen/mokuji.htm">https://www.nta.go.jp/shiraberu/senmonjoho/sake/miseinen/mokuji.htm</a>
アルコール健康医学協会	お酒と健康 未成年者飲酒防止 <a href="http://www.arukenkyo.or.jp/health/minority/">http://www.arukenkyo.or.jp/health/minority/</a>
e-ヘルスネット【情報提供】 （厚生労働省）	健康情報サイト（「飲酒」で検索） <a href="http://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/alcohol">http://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/alcohol</a>
特定非営利活動法人 アスク	アルコールを中心に依存性薬物問題の予防に取り組んでいる。 飲酒に関する実例やデータなど掲載。 <a href="http://www.ask.or.jp/">http://www.ask.or.jp/</a>

発行：ビール酒造組合  
 制作協力：日本教育新聞社  
 監修： 玉木武（元公益社団法人アルコール健康医学協会理事長）、植田誠治（聖心女子大学教授）、丸山勝也（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター名誉院長）  
 編集協力：野間基子（神奈川県立新羽高等学校教諭）  
 デザイン：株式会社エディット

●教師用指導の手引きに関するお問い合わせ

**日本教育新聞社**  
 電話03-5510-7800 FAX03-5510-7802（月～金 9:00～17:00） [平成 29 年 6 月発行]

# お酒と私たちの健康

## 【教師用指導の手引き（高等学校用）】

ビール酒造組合

### はじめに

この度ビール酒造組合では、中学校・高等学校用に未成年者飲酒防止を目的とした DVD「お酒と私たちの健康 ～お酒を勧める大人より断るあなたの方がもっと健康の理解者～」を作成しました。

学校での未成年者飲酒防止教育の主な学習内容は、1) アルコールの心身への影響について、2) 飲酒の開始要因とその対処についてです。本教材は、中学校・高校段階で、この2つを教える際の利用を意図して作成されています。また、「教師用指導の手引き」は、中学校指導用と高等学校指導用のそれぞれが作成されており、中学校については、未成年者のアルコールの影響、アルコールと脳、アルコールの害、アルコールを分解する体質などを理解したうえで、飲酒を誘われたときの対処を考え実践するよう構成されています。高校については、アルコールの急性影響と慢性影響、飲酒開始の個人的要因と社会的要因、飲酒の社会的対策など理解したうえで、飲酒を誘われたとき、特にイッキ飲みのような危険な行為を求められたときの対処を考え実践するよう構成されています。

DVD 内で解説される科学的根拠によって、生徒が納得する授業展開が期待できます。またロールプレイングの模範を参考にし、断り方を実践することによって、お酒を誘われたときの意志決定・行動選択をより実践的に考え学ぶことが期待できます。

聖心女子大学教授 植田誠治

## 目次

- 授業用資料① 飲酒の健康への影響を題材とした場合の展開例 …… P2
- 授業用資料② 飲酒をすすめられたときの対処を取り入れた展開例 … P3
- 授業用資料③ その他の教育活動との関連 …………… P4

※こちらの展開例は DVD と組み合わせた活用もできるように設定しております。チャプターごとに分けて活用ができますので、授業内容に合わせてお使いください。

# 飲酒の健康への影響を題材とした場合の展開例

1 単元「現代社会と健康」 題材「飲酒と健康」(高等学校 保健体育科)

2 本時の目標

- ①飲酒の開始要因として、個人的要因・社会的要因が関係することに関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
- ②飲酒に対する社会的対策を、具体例をあげて、説明することができる。(知識・理解)

3 展開

	学習内容・学習活動	教師の発問・指導	DVDとの関連
導入 5分	1. 飲酒に関するポスターやマークを見て、それらに書かれている内容を予想する。(予想される答え：お酒は20歳になってから、妊婦への影響、飲酒運転)	○未成年者飲酒防止のポスターや、缶ビールなどに書かれている注意書きの内容について質問し、回答するよう伝える。	
	2. 飲酒に対する社会的対策はどんなものがあるか考え、発表する。(年齢確認、自販機の販売規制、CMや広告の自主規制、未成年者飲酒禁止法など)	○飲酒に対する社会的対策は、ポスター等の表示のほか何が行われているか考え、3名ほど発表するよう促す。 ○飲酒の課題に対し、さまざまな社会対策が行われており、環境が整備されていることに気づかせる。	
展開 40分	3. アルコールの急性影響と慢性影響について考える。 ・急性影響と慢性影響の具体例をノートに記入し、それらが個人や周囲の人々、胎児へどのような影響を与えるかについての説明を聞く。	○急性影響からは急性アルコール中毒、「イッキ飲み」の危険性について、慢性影響からは、アルコール依存症や肝臓障害などを取り上げる。 ○アルコールの分解速度には個人差があり、未成年者は成人と比べ分解速度が遅く、体内にアルコールが残りやすいということにも触れるようにする。 ○あわせて、急性影響と慢性影響から飲酒による周囲の人への影響や胎児への影響について説明を加える。 ○健康課題を理解した上で、人が飲酒をする要因について考えるよう促す。	⇒ DVD Chapter 3
	4. 飲酒する要因について考える。 ・ノートに自分の考えをまとめる。	○飲酒をする要因として、個人的要因(好奇心、規範意識や自己肯定感の低下など)・社会的要因(周囲の人からの誘い、酒を入手しやすい環境、CMなど)が影響していることを説明する。	⇒ DVD Chapter 4
	<b>飲酒による健康課題を防止するには、社会環境への適切な対策が必要であること</b>		
	5. 効果的なアルコールの社会的な対策について考え、発表する。	○アルコールの社会的な対策について、さらに自分が提案できそうなことを考えるよう促す。 ○正しい知識の普及、健全な価値観の育成のために、どのような方法が効果的なのかを考えるように促す。また、法的な整備といった視点もあることを伝える。 ○2～3名の生徒を指名し、発表するよう指示する。	
まとめ 5分	6. 本時の学習を振り返る。 ・飲酒による健康被害を防止するために自分としてできることについてノートに記入する。	○自らの健康だけでなく、社会の一員として自分からできることは何かを考えることが必要であることを確認できるようにする。	

4 評価のポイント

- ・飲酒の開始要因として、個人的要因・社会的要因が関係することに関心を持っていたか。
- ・飲酒に対する社会的対策を具体的に説明することができたか。

5 配慮事項

中学校で学習した内容の単なる復習にとどまることのないように注意する。

6 他の教育活動との関連

特別活動、総合的な学習の時間など

# 飲酒をすすめられたときの対処を取り入れた展開例

1 特別活動(保健指導)

題材「飲酒をすすめられたときの対処」

2 活動の目標

- ①飲酒の誘いが断りにくい状況があることに気づき、状況に応じて適切な判断をすることができる。(思考・判断・実践)
- ②飲酒の誘いに対して、適切な断り方を実践することができる。(思考・判断・実践)

3 展開

	学習内容・学習活動	教師の発問・指導	DVDとの関連
導入 3分	1. アルコールに関する数値から何を示しているか考える。	○年代別のグラフを見せ、何のグラフであるか予想するよう指示する。 (参考：東京消防庁HP「他人事ではない「急性アルコール中毒」」表2：平成24年 年代別の急性アルコール中毒による救急搬送人員) ○急性アルコール中毒による救急搬送人員であることを説明し、20代が一番多い理由を考えるよう促す。	⇒ DVD Chapter 3
	2. 過去の事例から、イッキ飲みの問題点と背景を考え、意見を出し合う。	○過去の事例からイッキ飲み事故が起こる問題点を考え、意見を出すよう指示する。(参考資料：イッキ飲み防止連絡協議会) ※意見が出ない場合は、なぜ被害者はイッキ飲みをしたのか、なぜ周りは止められなかったのかについて発問し、意見を出すよう促す。	
展開 45分	3. どうすればイッキ飲みを防ぐことができるのか考える。	○イッキ飲みは、環境や場の空気、先輩や友達との人間関係、大量飲酒の危険性など多くの問題点が考えられることを説明する。	⇒ DVD Chapter 5～9
	4. 飲酒の誘いの場面を想定し、誘惑に対する適切な対処方法について考える。 ・グループで一つの例について、せりふを書き入れてシナリオを完成させる(各自がまず、案を考え、グループでまとめる)。	○自分の身を自分で守る方法、周りの人の協力を得て身を守る方法など、それぞれどのような防止方法があるか考えるよう促す。 ○飲酒の誘いを想定させる場面を例示する。 ・同級生の友人から誘われる。 ・部活動の先輩から誘われる。 ・アルバイト先の人から誘われる。 ※時間があれば、「イッキ飲み」を強要された場合、強要している場に居合わせた場面を想定し、断り方・止め方を考えるよう促す。	⇒ DVD Chapter 31 ⇒ DVD Chapter 36 ⇒ DVD Chapter 37
	5. ロールプレイングを実施し、ロールプレイングに参加した者が感想を述べる。	○グループの代表者を選び、教師が誘う役をして、シナリオを使って各自で断り方を工夫しながらロールプレイングを実施する。	
	6. 飲酒の社会環境の整備が整えられていることを知る。	○断りにくい場合があること、飲酒を誘われる様子を見ている者が、止めることができない状況があることに気づかせるようにする。 ○イッキ飲ませは犯罪であることに触れながら、未成年者飲酒禁止法をはじめ、さまざまな飲酒対策がとられていることを説明する。	
	7. 誘惑の対処法として、自分たちは何ができるかグループで話し合い発表する。	○自分だけではなく、相手を大切に思う気持ちが必要であることを説明する。	
まとめ 2分			

4 評価のポイント

- ・飲酒の誘いが断りにくい状況があることに気づき、適切な判断をすることができたか。
- ・適切な断り方を理解し、ロールプレイングで実践することができたか。

5 配慮事項

ロールプレイングの際に、初めは教員が誘い役を行うと良い。時間があれば、グループごとのロールプレイングを実施する。

6 他の教育活動との関連

保健体育科「保健」、学校行事など